

症 例 報 告

(「地域薬学ケア専門薬剤師」の 50 症例用)

領域の分類 (細則「別表2」から選択)	16:その他	患者性別	男○女	患者年齢	なし
関与形態	連携施設来局(調剤)・連携施設来局(OTC 等相談)・在宅・ <u>公衆衛生</u> ・基幹施設				
管理するプロブレム (上限 120 字)	学校薬剤師活動 教室の換気方法				
自ら薬学的管理に関与した期間	自 2020 年 1 月 9 日 至 2020 年 1 月 20 日 ※「連携研修前の症例」の場合はシステムにチェックを入れてください。				
自ら薬学的管理に関与した回数	3 回 (内 フォローアップ 0 回)				
患者背景	自らの薬学的管理までの経過 (上限 190 字) なし				
	病歴 (上限 130 字) なし				
	社会・生活歴(嗜好品含む) (上限 120 字) なし				
	家族歴 (上限 60 字) なし				
	薬学的管理開始時の処方内容 (上限 250 字) なし				
	他科受診・併用薬 (上限 260 字) なし				
薬学的管理の要約 (上限 1,000 字)	担当している中学校より教室の換気についての定期検査と、指導についての相談をうけた。2020 年 1 月 9 日学校を訪問し、換気状況の調査および、二酸化炭素濃度の測定を行った¹⁾。始業前の換気は不十分であり、二酸化炭素濃度は基準値である 1500ppm を超えていた。授業開始直後 1500ppm を超え、始業 20 分後には 2000ppm に至った。対角線上の欄間を開放するとともに、熱交換換気装置を稼働させたところ徐々に二酸化炭素濃度は低下し 10 分後には 1500ppm を切り、終業時には 1200ppm まで低下した。別の教室では始業前の換気が行われており、熱交換換気を常時稼働させていた。700ppm でスタートし、授業時間を通じて 800ppm～900ppm で推移した。各教室について、二酸化炭素濃度、室温、湿度の推移について学校に報告を行い、休憩時間中の換気とともに、授業中は常に熱交換換気を稼働させるよう指導した。1 月 20 日再度換気状況の検査を行い、全クラスとも換気が徹底されていることが確認された。今回の換気の定期検査の結果については、飲料水・照度などの検査結果と合わせて 2020 年 8 月に開催された学校保健委員会で報告し、教職員、PTA の他、学校医・学校歯科医とも共有した。				
文献 1	1) 文部科学省 著作権所有, 学校環境衛生管理マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践[平成 30 年度改訂版], 日本学校保健会編, 丸善出版株式会社, 東京, 2018 年, P26,および P144				
文献 2					
文献 3					

(参考) 本症例報告に記載された「薬学的管理の要約」は 528 字です。